様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	スケートのまちづくり事業	コード	113410

2 担当部課	部等	教育部	課等	スポーツ振興課	作成者	伊藤　雅章

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	文化・スポーツの振興	施　策	スポーツの振興
	予算科目	スケートのまちづくり事業費	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	スポーツ基本法第4条・第7条・第22条		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		アイスアリーナ等のスケート施設を活用し、多くの市民にスケートに触れ、体験してもらうため、スケート教室、ファミリースケートデー等を実施する。
目的	対象者	市民
	意　図	市民スポーツの振興を図る。

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

下記の大会等の開催や支援を行った。
【大会】12大会　1,496名
・長野県チャレンジカップショートトラックスピードスケート選手権やまびこ大会（10/2・107名）、岡谷市長杯争奪長野県ジュニアアイスホッケー大会（10/15,16・120名）、国民体育大会フィギュア長野県予選会 兼 長野県高等学校総体フィギュア競技会（11/12・13名）、やまびこカップスピードスケート競技会（12/3・299名）、長野県中学校スピードスケート競技会中南信大会 兼 諏訪郡市中学校スケート大会（12/10,11・112名）、長野県ジュニアスピードスケート競技会（12/18・264名）、国体冬季大会スピードスケート競技会長野県予選会（12/17・65名）、市民スケート大会（1/8・39名）、国体アイスホッケー競技（1/27～31・350名）、長野県フィギュア選手権大会 兼 長野県高等学校新人フィギュア競技会（2/18・37名）、長野県ジュニアショートトラックスピードスケート選手権岡谷大会 兼 長野県ショートトラックスピードスケート選手権大会岡谷大会（2/26・50名）、市民カーリング大会（3/5・40名）
【教室】7教室　1,667名
フィギュアスケート教室（10月～11月・119名）、アイスホッケー教室（11月・19名）、スピードスケート教室（10月～11月・65名）、カーリング教室（12月～2月・36名）、おかやスピードスケートトータルサポートクラブ　初心者～上級者（7月～2月・753名）、おかやスピードスケートトータルサポートクラブ　アスリートコース（6月～2月・538名）、親子で氷上運動会（11/13・137名）
【ファミリースケートデー】7回　1,485名
アイスアリーナ（11月～2月・4回・507名）、やまびこ国際スケートセンター（12月～2月・3回・978名）

前年度の課題への対応	・「多種目スケート教室」については、参加状況等のニーズに基づき定員等を見直した。 ・第72回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会開催に向け、市民の競技への関心を高めるため、「親子で氷上運動会」をスポーツ振興事業から移管し、実施した。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	大会等開催数			単位	回
実績値	22	21	26		
＊指標の説明	大会・教室・ファミリースケートデーの開催数				
② 成果指標（指標名）	大会等参加者数			単位	人
目標値	5,309	5,309	4,855		4,598
実績値	3,968	4,598	4,648		
達成度	74.7%	86.6%	95.7%		
＊指標の説明	大会・教室・ファミリースケートデーの参加者数				
＊目標値の設定方法の説明	過去3年間における実績の最大値				

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	3,975,514	3,975,681	4,033,547	3,755,000
経常経費	3,975,514	3,975,681	4,033,547	3,755,000
臨時的経費	0	0	0	0
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費		3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000
正規職員の人数（人）		0.45	0.45	0.45	0.45
③ 合計コスト（①＋②）		7,575,514	7,575,681	7,633,547	7,355,000
前年度比			100.0%	100.8%	96.4%
財源内訳	一般財源	7,229,914	7,242,081	7,361,347	6,890,000
	特定財源	345,600	333,600	272,200	465,000
＊特定財源の説明		スケート教室受講料			
④ 活動一単位あたりコスト		344,342	360,747	293,598	
前年度比			104.8%	81.4%	
⑤ コストに関する補足説明					

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性**　**高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性**　**標準**

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　101.1%	1	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　95.7%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） ・スケート人口等の底辺拡大を図るとともに、競技人口の拡大及び競技力の向上が課題である。	
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） ・スポーツ振興事業から移管した、ファミリースポーツプログラム「親子で氷上運動会」を、冬季国体で高まったアイススポーツへの関心を継続させ、スケート競技人口の増加を図り、各種事業を効率的・効果的に実施するため、スケートのまちづくり事業で引き続き実施する。 ・「多種目スケート教室」については、スケートを始めるきっかけづくりとして、スピードスケート教室とフィギュア教室を一本化し、実施する。	
	改善開始時期	平成２９年４月

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B